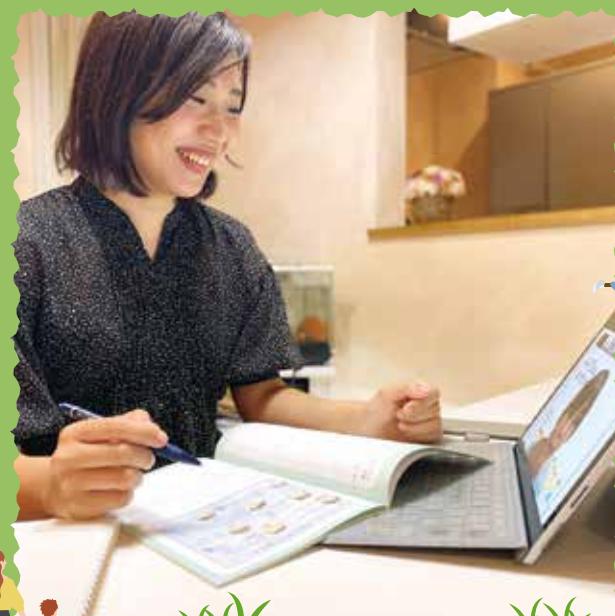


HARMONIA+

ハルモニアプラス

第26号
2022.1

特集「ヤングケアラー」



社会福祉法人ハルモニア

HARMONIA

約20人に1人の子どもが
直面している問題に
私たちはどう向きあつたらよい?

ハルモニアトークス

vol.1 テーマ:ヤングケアラー



静岡福祉文化を考える会

さまざまな福祉活動に携わる人と市民とが、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え改善のために努力することを「福祉文化」ととらえ、平成8年から県内全域で活動を開始。公開型学習会やセミナーを開催するほか、調査研究活動、機関誌の発行などを行う。



NPO法人藤枝ももはなの会

平成15年「障がい児・者のきょうだい」の作文集ももはなをきっかけに、障がい者と暮らす悩みや葛藤を伝えたいと、藤枝市内中学校を対象に朗読会「ももはな作文集朗読会」をスタート。以来6年以上にわたり活動を継続。令和元年10月特定非営利活動法人に認定。



静岡きょうだい会

平成15年「障がい児・者のきょうだい」の作文集ももはなをきっかけに、障がい者と暮らす悩みや葛藤を伝えたいと、藤枝市内中学校を対象に朗読会「ももはな作文集朗読会」をスタート。以来6年以上にわたり活動を継続。令和元年10月特定非営利活動法人に認定。

障がいがある兄弟の作文をまとめた文集「ももはな」に感動し、障がい者やその兄弟のことを多くの子どもたちに伝えたいと思い、藤枝市内の中学校で朗読会を行っています。プロのアナウンサーにも協力いただき、これまでに3800人の生徒に聞いていただきました。

平田(=平) 私は五十数年、福祉施設、社協、大学等で「福祉実践」をテーマに取組んで

護をしていることが報告されていますが、私自身は障がいがある妹との関わりの中で、きょうだいの視点が社会の中にはあまりにも抜け落ちています。プロのアナウンサーにも協力いただき、これまでに3800人の生徒に聞いていただきました。

澤田(=澤) 私は五十数年、福祉施設、社協、大学等で「福祉実践」をテーマに取組んで

う感じていたのかという視点や、当事者が思いを伝え合うことの重要さを感じました。

平 重症心身障がい児の施設に従事していた時代に、保護者との懇談会で、親亡き後を兄弟に託すという課題を取り上げたことがあります。長男は重度の知的障がいがあり、小さい時には病院や療育にきょうだいを連れていく機会が多かったです。沖さんの話を聞いて、きょうだい自身がどう感じていたのかといふのが、本当に悩んでいる人がいると感じ取っていました。

兄妹が抱えて当然という時代でしたが、今は家族であっても、介護のために個人が豊かに生きる権利が侵害されないで、特に18歳前後の人は子どもとしての権利が守られるべきだという認識に変わってきます。ヤングケアラーは今の時代だからこそ浮き彫りになった社会的問題になっています。

沖 ヤングケアラーが社会問題になっていくことで、国が調査をしたり、埼玉県が「ケアラー支援条例」を作ったりと、介護する人にも人権があることが周知され始めています。一人一人が上げ始めた声を、まずは聞いてみようとして社会が変化していると感じています。

みが一本化されました。私のようなケースも例外ではないことが救いだった。同じ悩みを持つ人がいることに光が見え、各地の当事者の会に足を運ぶ中、静岡にもそういう場が必要だと感じたのです。

澤 そうだったんですね。私の長男は重度の知的障がいがあり、小さい時には病院や療育にきょうだいを連れていく機会が多かったです。沖さんの話を聞いて、きょうだい自身がどう感じていたのかといふのが、本当に悩んでいる人がいると感じ取っていました。

南 **テレビ番組で沖さんを知り、こういう思いがあるのだと感じ入ったものでした。一方で、なぜヤングケアラーが生まれるのか疑問に思っています。少年たちの保護観察に携わった経験から、ひとり親世帯をはじめとする家庭環境の影響があるのかもしれません」とおっしゃいました。その時に気付かなければいけないのは、社会が変わっているということ。世帯人口の減少、共働き世帯、ひとり親世帯の増加など、昔とは状況が違いますし、家庭内の負担も増していくでしょう。そういう変化が減っているので介護に対する理解しなければ、今のヤングケアラーの問題を本質から捉えるのは難しいと思います。考えるべきなのは、子どもの権利が守られているかどうか。ユセフの「子どもの**

*1 ヤングケアラー
本来大人が担うべき家事や家族の世話、介護などを日常的に行っている子どものこと。

*2 平成29年総務省「就業構造基本調査」をもとに毎日新聞が独自に集計したものによると国内15~19歳に介護者は3万7千人。そのうち8割は通学しながら介護をしている。文科省と厚労省がによるヤングケアラー支援に向けた福祉介護医療教育の連携プロジェクトチームが全国で実態調査を実施。2021年3月に公表されたデータでは中学2年生全体の5.7%(17人に一人)、高校生4.1%(約24人に一人)がヤングケアラーとされる

新型コロナウイルス感染症によって世界が揺れ動く中、家族の介護をする若者「ヤングケアラー」の存在がクローズアップされています。中学生17人に一人とも言われる当事者の声をどう受け止め、地域や社会に向けてどう発信していくべきか。ヤングケアラーに関する活動をする皆さんと、ハルモニア理事長・澤田祐一が話し合いました。

若者が介護を担う ヤングケアラーの現状

澤田(=澤) ヤングケアラー(※1)が社会問題になっていますが、静岡にもヤングケアラーに関する活動に携わる方がいます。今日はその存在をお伝えするため、3人の皆さんにお集まりいただきました。それでの活動の内容を教えていただけますか?

南條(=南) 私は保護司として活動している時に

きました。福祉を、制度や資格だけで解決できる社会ではなく、文化にしていくとの思いから、「静岡福祉文化を考える会」に関わっています。沖さんの活動を知ったとき、静岡の福祉の世界にもようやく当事者の立場で活動する心強い人が現れたと、嬉しく思いました。

沖 ありがとうございます。文科省と厚労省による連携プロジェクトチームの実態調査で、全国の中学生2年生の17人に1人、高校生の約24人に1人(※2)が、誰かしらの介

だいの立場はどうしてもおいてきぱりになってしまいます。私自身、子どもの頃は、妹が中心にまわる家庭の状況が我慢する事が多かったり、思春期の頃からは自分と家族の将来に不安を抱き始めるなど、特有の悩みを抱えて、それを打ち明けようとした。そんなときは、あるテレビ番組で、環境的な構造の中できょうだいという立場だからこそ生まれる悩みもあるのだと知り、これまでの私の悩



リモートで参加!
沖侑香里さん
「静岡きょうだい会」代表



4月10日は、
きょうだいの日

権利条約」を見ると、生きる

権利、育つ権利、守られる権利など、さまざまな部分でヤングケアラーと重なってきます。お手伝いとはどう違うのかよく質問されますが、目の前の子どもが家族の介護やケアのために過度な負担が強いられないといふ、本当に辛いのに辛いと言えていいんじやないか、そういう視点が大切だと思います。

南 確かにそうですね。中学校で朗読会を開くと、生徒たちからは「こういう人たちがいることを知らなかつた」「初めて知つた」という反応が少なくないんです。だからこそ朗読を聞くことで「勇気をもった」「感動した」という感想を持つことは、意味があるはずです。これからも作文を書いてくれた人の勇気を

伝え、保護者や一般の人にも理解してもらうために、地域の中ができるだけ多くのこのような場を設けることが大切だと思うのです。

平 南條さんもおっしゃるように、家庭環境についての話が出ましたが、これら子供たちを育んでいくためには、親が地域との関わりをしっかりと持つことが不可欠ですね。社会にいろんな問題があることを知ると同時に、地域ぐるみの福祉教育を進めることができます。社会や親が地域との関わりをしっかりと持つことが大切ではないでしょうか。



沖 静岡きようだい会を立ち上げる流れと、問題を社会化していくという先生の言葉が今、じっくり腑に落ちています。「一番のポイントはまさに個人の問題に帰結させないこと。自己責任や努力が足りない、という認識がありますが、変わるべきだと思います。

個人の問題にせず 社会に発信・共有を

南 地域との連携という意味では、学校もその役割を担っているのでしょうね。地域とともに密接に関係しています。その状況が生まれる環境を把握し、福祉が適切に介入したり、会話の中での言葉がけを考え、正しい情報を伝えら

れようになればいいなと思っています。

沖 静岡きようだい会を立ちせず、子どもたちとその周辺を救う。難しい問題ですが、沖さんのような若い人の活動に期待したいですね。

澤 SDGsでも「貧困をなくす」「すべての人に健康と福祉を」といった、ヤングケアラーとも深く関わる項目が挙げられています。社会や福祉の動きが大きく変わってきている今、若い人たちが次に時代をどういう時代にしたいのか、今後福祉と教育は何を残し、何を作っていくのかをお話しいただけますか?

沖 ヤングケアラーの問題に対して、親の責任を問う声も聞こえます。ただ、親も頑張っている中でヤングケアラーが生まれる現状があり、この問題を解消するには、子どもだけを支えるのではなく、親や祖父母といった周辺にも目を向けなければなりません。これは子どもの貧困



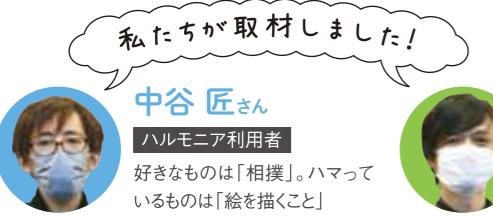
平 まずは、「地域を知る」とすること。もう一つは「市民性と専門性の『融合』」です。わ

が家だけ、私の地区の施設だけの問題にしないためにも専門家を巻き込んで制度を変えていくような訴えをしていく。そのためには、障がい者問題をみんなで共有し、問題があるから施設を利用している。だから施設は利用者の授産などを考えればいい。ではなく、「施設の社会化」を地域に発信しながらつなげていくことです。文化とは「耕す」の意味をもつていています。地域社会の中で施設から様々な課題を発信することで、誰もがより豊かに暮らしあうことを日々努力してゆきたいですね。地域にはいろんな人がいて、当たり前、そういう社会環境を認め合う牽引力になってほしいと願っています。



探訪！ となりの SDGs vol.1

ハルモニア職員と利用者による地域のSDGsを探る体当たり取材。第1回目は、地域密着型の老舗の自転車店を訪問しました。



中谷 匠さん
ハルモニア利用者
好きなものは「相撲」。ハマっているものは「絵を描くこと」

鈴木 沙敏
ハルモニアスタッフ
最近嬉かったことは利用者の日々の成長と変化



小川 大輔さん
小川サイクル店主(5代目)
オススメは「電動自転車」♪

お店が長続きしている秘訣はなんですか？

小川 自転車店は売るだけではなく、パンクの修理だったり部品の交換だったり、アフターメンテナンスも大切なんです。外で使うものですから壊れることも多いですね。うちでは、自転車が壊れた人がいたら、藤枝市内ならトラックでどこでも出張修理にお伺いします。あと、学生さんに限り後払いサービスもあります。学生さんってあんまりお金を持ち歩いていないので後でいいよ、ということです。

鈴木 至れり尽くせりですねー！

小川 商売なので儲けが大事ですが、まずは「地域のみなさんが困っていることがないか」を考えながら営業しています。こういうところが地域密着の良いところ。先代も先々代も、きっと同じ気持ちでやってきたんだと思います。

中谷 長く続けていく中で、変化はありますか？

小川 電動アシスト付き自転車の登場が一番大きな変化かな。出てきてから25年くらい経ちましたが、すごい普及率です。あとは高齢者のお客様が増えてきたこと。最近では80代、90代でもあたりまえのように自転車に乗られます。みなさん本当に元気です。電動自転車はバッテリーが進化してきていますし、3輪タイプもあるので、高齢の方もよく購入されています。

中谷 実は僕、今まで一度も自転車に乗ったことがないんだけど、3輪なら乗れそうです！

小川 一度も?じゃあ、せっかくなのでちょっと試乗してきましょう！

中谷 お願いします。いいのあるかな？



小川サイクルについて教えてください！

小川 はい。小川サイクルは今年で創業100年になる自転車店で、店主は私が5代目になります。

鈴木&中谷 えっ！そんなに古くから？

小川 自転車専門店としては県内でもかなり古いです。お店がある商店街は「藤枝宿上伝馬商店街」と言います。この辺は、旧東海道で22番目の宿場町として古くから栄えていて、商店街には歴史のあるお店がたくさんあります。うち以前、オートバイを取り扱っていたこともありましたが、今は自転車専門です。店内には常に250台以上の自転車を取り揃えています。

鈴木 藤枝はもともと自転車に乗る人が多いんですか？

小川 はい。そもそも静岡県全体が他県よりも多いですが、藤枝市はその中でも特に多いですね。坂道が少なくて運転が楽だし、都会すぎないから乗りやすいかもしれません。それから、高校生はもちろん中学校にも自転車通学の学区があるんです。これは珍しいです。ですからお客様は学生さん、あとは近所の高齢者の方も多いですね。

鈴木 地域密着型のお店なんですね！

小川 そうです。一家3代で利用される近所のお客様や、通学中の学生さんが気軽に立ち寄ってくれるようなお店です。



「地域のみなさんが困っていることがないか」
いつも考えながら仕事をしています。



▲出張修理で出動するトラック。
藤枝で見かけたらよろしくね！



▲人生で初めて自転車のサドルにまたがった中谷さん
風が気持ちいい♪

自転車に乗る人と乗らない人が仲良く過ごすために必要なことは何ですか？

小川 一番重要なのは譲り合い。お互いに配慮することだと思います。通路で歩行者と出会った時、自転車は歩行者の邪魔にならないように走っていただく。歩行者は、自転車が多いところを歩く時は、自転車が急に来ても大丈夫なように周りを注意しながら歩いてもらう。お互い相手のことを考える。何事もそうですよね。

中谷 自分のことだけじゃなくて相手のことを思いやる。とても大事なことですね。仕事も同じですね。勉強になりました！



小川サイクル

住所／藤枝市藤枝4-2-4
TEL／054-641-0543
営業時間／9:30～19:00
定休日／水

ここで見つけた「SDGs」

自転車は学生さんや高齢者など世代を問わず、ずっと乗り続けていくもの。毎日の暮らしに欠かせないものだからこそ地域のつながりを大切に、その時々の「困りごと」に対して寄り添う事で、またつながっていくのではないかでしょうか。



南 確かにそうですね。中学校で朗読会を開くと、生徒たちからは「こういう人たちがいることを知らなかつた」「初めて知つた」という反応が少なくなっています。だからこそ朗読を聞くことで「勇気をもつた」「感動した」という感想を持つことは、意味があるはずです。これからも作文を書いてくれた人の勇気を

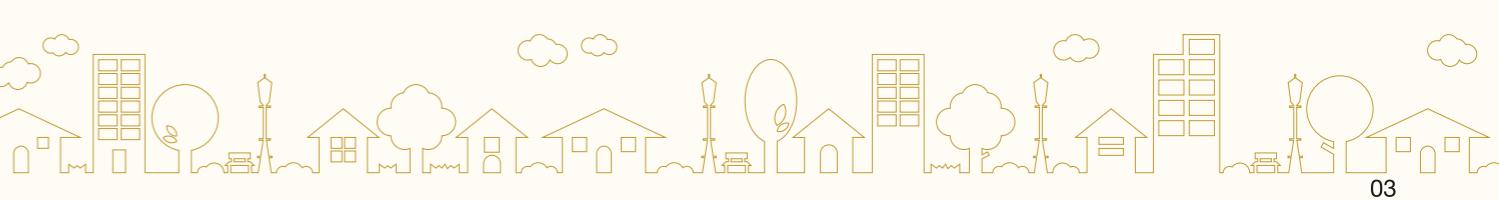
伝え、保護者や一般の人にも理解してもらうために、地域の中ができるだけ多くのこのような場を設けることが大切だと思うのです。

平 南條さんもおっしゃるとおりですね。家庭環境についての話が出ましたが、これから子供たちを育んでいくためには、親が地域との関わりをしっかりと持つことが不可欠ですね。社会にいろんな問題があることを知ると同時に、地域ぐるみの福祉教育を進めることができます。社会や親が地域との関わりをしっかりと持つことが大切です。

澤 SDGsでも「貧困をなくす」「すべての人に健康と福祉を」といった、ヤングケアラーとも深く関わる項目が挙げられています。社会や福祉の動きが大きく変わってきている今、若い人たちが次に時代をどういう時代にしたいのか、今後福祉と教育は何を残し、何を作っていくのかをお話しいただけますか？

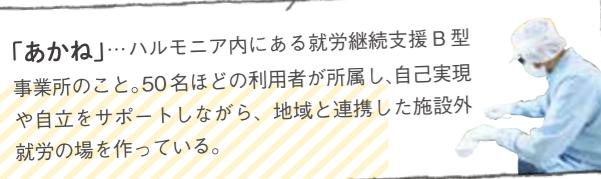
澤 ハルモニアはまさに、地域にそういうインフラがほしいという思いから、障がいのある子どもの親が集まつて作られた法人です。これから地域の中で社会福祉法人の役割があるとしたら、どのようになものでしようか。

沖 ヤングケアラーの問題に対して、親の責任を問う声も聞こえます。ただ、親も頑張っている中でヤングケアラーが生まれる現状があり、この問題を解消するには、子どもだけを支えるのではなく、親や祖父母といった周辺にも目を向けなければなりません。これは子どもの貧困



ハルモニア ワークスタイル

コロナで必要となったマスクがつながりのかけ橋に



START 1 はじまりは…村上開明堂さんからの「障がいのある人にマスクの製造ができないか?」という一言から

マスク製造にあたって目指したのは「誰でも安心、安全に作業ができる環境」。村上開明堂は2020年5月から、ハルモニアと共にマスクを製造するための設備の開発を開始。当初は失敗の連続でした。

Point! 当初は失敗続き…そんな時こそ意見の交換を

担当者の山田さんは、どんな不具合があるのかを、利用者に徹底的にヒアリングしながら、改良と試行錯誤を積み重ねます。改良にあたって、利用者のみんなもどんどん意見を言うようになり、現場に一体感が生まれました。結果、作業量や時間を表示するモニター、マスクを固定して作業しやすくする治具の取り付け、フットスイッチの改良などを施し、素晴らしい作業場が完成しました。

利用者Aさん

はじめはマスクとゴム紐をくっつける作業がすごく大変だったけど、慣れてきてキレイにできるようになってとても嬉しかった!



2 MISSION 障がい者の工賃アップ

作業場が完成すると、当初は1人につき1日あたり数十枚しか作ることができなかったマスクを、200枚～700枚も作ることができるようになりました。

マスクの製造にあたり、作業中も助け合いながら、作業内容や質が向上するための方法をみんなで考えます。現在では市販の商品に負けない高品質のマスクを作り上げることができます。

Point! 工賃の上昇
全国平均／月17,000円
マスク作業
40,000～50,000円!

利用者Bさん
お給料が上がったので、自由に使えるお金が増えて嬉しいです。家族に食事をごちそうすることもできました! 将来的にひとり暮らしができるよう、お金を貯めていきたいです。

担当者の声
山田 恵一郎さん
株式会社村上開明堂

利用者のみなさんの仕事に向き合う前向きな姿勢から、障がい者雇用の新たな可能性を感じました。プロジェクトの当初、私自身、障がいのある方とのやりとりに不慣れだったのですが、みなさんとストレートに本音をぶつけ合っていくうちに、心が打ち解けました。

村上開明堂
社会福祉法人ハルモニア成人部門
「あかね」
協働チャレンジ

ハルモニアで働くことに、どんな意味があるんだろう?
今回は、2021年2月にスタートしたマスク事業をクローズアップ。
事業の誕生や開発までの道のり、関係者のリアルな声をお届けします。



3 FUTURE これからの可能性

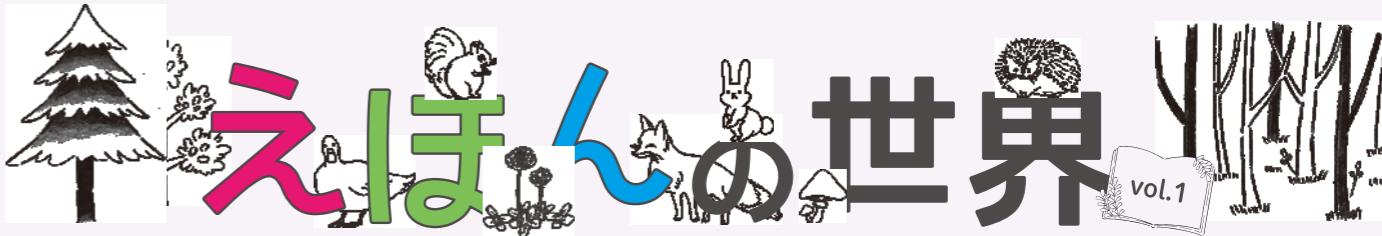
「支え合いマスク」は1枚55円。藤枝市を中心に、ドラッグストアや郵便局などで販売し、県内の多くの企業、団体から注文を受けます。納品先には直接マスクを手渡すこともあります、地域のみなさんと触れ合う貴重な機会に。

Point! 地域とのふれあいのきっかけに

マスクを購入してくださる方、村上開明堂さんの他にも、材料を納品いただいているエスパックさんのご協力がなければ、実現できないもの。皆さまへの感謝と、利用者の夢や希望を実現するための「支え」となってくれるこのマスクが、今後も多くの人々を繋ぐツールとして、広まっていくよう願っております。

サポートスタッフの声
長谷川 準さん
株式会社ハルモニア あかね 作業担当者

利用者のみなさんが陰ながらサポートさせていただきましたが、ただ機械に向かって黙々と作業をするではなく、仲間や開発者の皆さんと積極的にコミュニケーションを取り、いろいろな人と繋がって、いろいろなことを吸収していく姿に感銘を受けました。



いくつになっても読む人の心にそっと寄り添ってくれる絵本。親と子をつなぐ絵本、もう一度読みたい絵本、今読んで欲しい絵本を、絵本のスペシャリストたちからのメッセージとともににお届けします。

『はなをくんくん』

ルース・クラウス／文
マーク・シーモント／絵
きじまはじめ／訳
(福音館書店)



『ペレのあたらしいふく』

エルサ・ベスコフ／作・文
おのでらゆりこ／訳
(福音館書店)



ペレは自分の子羊を飼っていました。短くなった自分の服を作るため、子羊の毛をかりとりおばあちゃんに頼んでいました。そのかわり、畑の草かりを手伝います。次にそれを糸につむいでもらい、その糸を染めて、布に織って…いろんな人に手伝ってもらい、自分もお手伝いをするのです。

ペレの服はどんなふうにできあがるのでしょうか? 子どもたちは、子羊の毛からすてきな服を作り上げたペレの成長に、目をみはることでしょう。

絵本は魔法のコミュニケーション

30年ほど前、長女が通っていた幼稚園で「絵本と子育て」についての講演会がありました。「晩ごはんの支度を始めると、子どもたちが泣き始めて大変。」という悩みを伝えた人に對して、先生の答えは「私も子どもを3人育てたけど、そういうときは手をとめて絵本を読んであげるといいのよ。子どもは絵本を読んであげればきっと聞いてくれるから」

—今でも、そのときの先生のゆったりした声と笑顔が浮かんできます。当時同じ悩みを抱えていた私は、その日さっそく絵本を読んでみました。すると、子どもたちは本当に泣くのをやめて私にまわりつき、絵本を見始めたのです。私もゆったりとした気持ちになつて、ごはんの支度はすっかり後回しに。

なーんだ、こんなに簡単なことだったのか……と目からうろこ、まるで魔法だ! と感じたくらいです。それからは何をしていても、子どもたちが「絵本読んで」と持ってくれば手を休め、絵本を読むようにしました。一緒に楽しむこと。それがいちばんのコミュニケーションですね。



本を選んだ人 今村愛子

焼津市在住。2004年から14年間、学校司書として小・中学校に勤務。2018年10月に家庭文庫「ちいさなとしょしつ もりのいえ」を開設。静岡県子ども読書アドバイザー。藤枝昔話を語る会に所属。

ちいさなとしょしつ 家庭文庫もりのいえ



毎週水曜日10:30～17:00(変更する場合があります。)

※もりのいえでは、本の貸し出しも行っています。読み聞かせやストーリーテリングをする「おはなしのじかん」はその日の様子を見ながら。

住所: 焼津市大住 TEL: 054-628-9165 インスタグラム: rapunzer17

社会福祉法人 ハルモニア

ご支援・ご協力ありがとうございます

(2020年4月1日～2021年12月31日)

古紙回収

合計130ヶ所

花ぼうろ

合計118ヶ所

パン・お菓子・お惣菜販売

学校法人藤枝学園
藤枝明誠高等学校
藤枝市立総合病院
ポップ株式会社

東海ガス株式会社
静岡県労働金庫
ふれあいサロン原
静岡県立藤枝東高等学校

合計7ヶ所

寄付

ハルモニア後援会 前島 明日香 様
ガゼルの森保護者会 株村上開明堂

合計4ヶ所

施設外就労・施設外支援

株村上開明堂 (株)静環検査センター
レック(株)

合計3ヶ所

寄贈



サーモカメラ

ハルモニア後援会より

サーモカメラを寄付して頂きました。ご利用者様も来客者様も安心して施設を利用いただけます。引き続き感染対策を徹底していきます。



マスク製造の機械

株式会社村上開明堂より

マスク製造の機械を寄付して頂きました。「誰でも安心に使える機械」を共同でつくりて頂き、多くのお客様にマスクを届け、繋がりの輪が広がっております。



絵画用の用紙

松本印刷株式会社より

絵画用の用紙を寄付していただきました。ペルアートの活動で活用しています。利用者の皆様満面の笑みで活動に取り組んでいます。今後はレストランスペースにも飾る予定です。是非ご覧ください。



ハルモニアの決算詳細、事業内容等は
ホームページで公開しています。

是非、ハルモニアホームページへお越しください。



<http://www.harmonia-fujieda.com>

ハルモニア広報誌リニューアルについて



社会福祉法人ハルモニア広報誌のネーミングを「ハルモニアマガジン」から「ハルモニア+(プラス)」にリニューアルいたしました。SDGsの時代において、サステナブルでウエルビーイングな社会を目指すためには何が大切なかを皆様と共に考える広報誌を目指しています。「ハルモニア+」のコンセプトは「田んぼ」。田んぼの中に地域社会の中にある様々な福祉の「可能性の種」を植え、皆様と一緒に育てていきたいと思います。